

東南アジア学会第 105 回研究大会@筑波大学

12 月 10 日(日)13:00~17:00

大会シンポジウム「高校における探究学習と東南アジア」

2022 年度より高校では探究学習(「総合的な探究の時間」)が必修となり、探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を通して、課題を解決し、自己の生き方を考えていく資質・能力の育成が目指されている。また、新学習指導要領では、すべての科目において「主体的・対話的な深い学び」が重視されている。この探究学習を重視する学科やプログラムを設置し、力をいれる高校がある一方で、この探究学習の実施をどのようにおこなうべきかという方法は確立されておらず、大学入試との連携ができていないために、この時間を軽視する高校も少なくない。

しかし、子供の数が減り、大学全入時代を目前にして、大学側も私立だけでなく、国公立でもこれまでのテストの結果のみによる選抜方式ではなく、総合型などの選抜方式の多様化が目立ち始めている。特に、大学の理系学部では高校での探究学習は大学に入る前に高校生に大学での学びの展望をもたせるために有効であるため、積極的な高大連携が見られるが、文系学部ではこの連携はいまだ進んではない。

東南アジアは日本との関係の深さ、(近すぎない、遠すぎない)適度な地理的位置により、海外短期研修地として選択されることが比較的多い。また、近年、日本における東南アジア人人口も確実に増えてきており、日本社会への影響を考えた時、探究型学習の対象とすることに十分に意味があると思われる。

本シンポジウムでは、高校での探究型学習に対し、東南アジア学会がどのような形で高大連携教育の一環として関与・貢献できるかを検討してみたい。

登壇者

<企画者・趣旨説明>

- 菅原由美 (大阪大学人文学研究科)

<探究学習と高大接続>

- 森朋子 (桐蔭横浜大学学長)

「探究活動の意味: 社会の変化に対応する学校教育を目指して」

<現場事例・高校>

- 秋場聡 (宮城県仙台二華高等学校教諭)

「事例報告「世界の水問題解決への取り組み」: カンボジア、ベトナムにおけるフィールドワークを活用した課題研究」

- 北山夏季 (関東国際高校教諭)

「気づきから探究へ: ベトナム語を学ぶ高校生の取り組みから」

<現場事例・大学>

- 島上宗子 (愛媛大学社会共創学部)

「日本・インドネシア学生農村実習を通じた高大連携の試み」

- 向正樹 (同志社大学グローバル地域文化学部)

「探究型の時代の教養世界史: 私学グローバル系学部での試み」

プログラム

13:00 ~ 13:05 趣旨説明 菅原由美

13:05 ~ 13:35 (30分) 森朋子

13:35 ~ 14:00 (25分) 秋場聡

14:00 ~ 15:25 (25分) 北山夏季

15:25 ~ 15:50 (25分) 島上宗子

15:50 ~ 16:15 (25分) 向正樹

16:15 ~ 16:25 休憩 (質問まとめ)

16:25 ~ 17:00 (35分) 総合討論